

# しば子先生の

## 芝生教室



先生：しば代ちゃん、前回芝生の体の中に占めるチッソの量を学んだけどどのくらいあるんだっけ？

生徒：はい、普通の芝生で2～4%程度、クリーピンググベントグラスでは4～6%のチッソが芝生の体を作っています・・・

先生：よく覚えているわね！感心感心・・・ところでそのあたりの野原に自然に生えている雑草にはどの程度のチッソがあるかわかる？

生徒：えっ・・・それは・・・

先生：ここは大事よ、雑草の種類にもよるけど一般的には0.3～1%程度と言うところね・・・

生徒：芝生に比べると少ないですね・・・

先生：そうなのよ！そこがとても大切なポイントなのよ！！雑草にチッソ肥料をあげたらどうなると思う？

生徒：え～っと・・・雑草に肥料ですか？あげたことないけど・・・雑草も元気になるのでしょうか？

先生：その逆よ、野山に生えている雑草にチッソ肥料をあげると枯れてしまうわ・・・

生徒：枯れてしまうんですか？・・・肥料をあげても？・・・

先生：雑草がどういう歴史で現在に至っているかを考えればその理由がわかるわね・・・前にも説明したけれど、自然界の土壌中には有機物に含まれる微量のチッソ成分しか存在しないわ、ほとんどが脱窒を起

こして空気中に戻ってしまう。雑草は何万年もの進化の過程で、自然界の土、つまりほとんどチッソ成分が存在しない土で育つものが生き残ってきたということなの。だからチッソ肥料をたくさんあげてもベントグラスのように4%、5%と言うように体内のチッソ量を上げて葉緑素やアミノ酸などの体を作る構成要素を多く作り上げることができないのよ。芝生の体を作るチッソの量を上げられるということはそれだけ素晴らしい成長力を発揮することができる能力があるということ。逆に言えば肥料養分、特にチッソ肥料の施肥量を下げた場合と雑草に有利になって芝生はますます弱ってきて芝地が雑草化してしまう最大の原因になってしまうということね・・・

生徒：確かに肥料の切れた芝地



チッソ4～6%の「元気芝君」、環境ストレス、病害、虫害、雑草の侵入に優れた抵抗性！

ほど雑草の比率が高いですよね・・・

先生：法面やラフもそうよ・・・予算が少なくて肥料を何年も施肥していないと雑草が多くなり、仕方なく除草剤をまくと今度は裸地化して法面が崩れてくる・・・除草剤の費用をちゃんとした肥料を使うことに使えば芝生が復活して雑草も消えるのに・・・

生徒：グリーンのカタビラの侵入もチッソ肥料養分の少なさからくるのでしょうか・・・

先生：カタビラで作られたカルフォルニアのゴルフ場では年間のチッソ施肥量をペレニアルライグラスの半分にするというのが一般的よ・・・

生徒：それは実際どのくらいになるのでしょうか？

先生：たとえば一般的に東京あたりの気候条件でペレニアルライグラスの年間チッソ要求量を考えると大体18g/m<sup>2</sup>辺りだわ、そうするとカタビラ用の年間チッソ量は半分の大体9g/m<sup>2</sup>になるわね・・・ベントグラスなら22～23gは必要ね・・・

生徒：年間チッソ10g以下の管理ですね・・・なんだかちょうどチッソを少なめに管理するパターンの典型ですね・・・

先生：そう！グリーンが早くなるからとか、芝刈りが間に合わないからとか言ってチッソ施肥量を落としているとカタビラなどの雑草

の方が優勢になってしまうのよ・・・

生徒：なんだかとても残念な芝生になってしまうんですね・・・

先生：本当にそうね・・・多くの人が除草剤や殺菌剤、殺虫剤などの農薬の使用にはあれこれと考えるけど、大事な肥料についてはあまり考えない人が多いわね、痩せっぽちの芝生は簡単に病気にも虫にもやられてしまうわ・・・それで薬漬けにする・・・絶対に勘違いしてはいけないのは、**農薬は芝生を元気にすることはできない**ということ・・・芝生を元

にするためには正しい養分管理と土壌管理からなのよ！・・・栄養失調で薬漬けでは芝生が怒るわよ！

チッソ2%以下の「しばい芝君」、環境ストレス、病害、虫害、雑草の侵入に抵抗性とても低い・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・  
shibako@hugh-enterprise.co.jp